

# 絆

## リモートでつなぐ交流の

東京藝術大学音楽学部による  
オンライン吹奏楽演奏指導

令和2年12月12日  
穂高西中学校 金管五重奏



コロナに負けない！

今回のオンライン指導では、音そのものは聞こえるので音程やリズム、全体のバランスなどある程度のことには生徒たちに伝えることができました。ですが、もしその場にいれば、楽器の状態が万全かどうか見極めることができました。大会前に大切なことを見てあげられないことに、もどかしさもありますね。

【回線Ⅰ】木管グループ



音楽学部 准教授  
三界 秀実 さん

【回線Ⅱ】金管グループ



教育研究助手  
山田 大 さん

【回線Ⅲ】打楽器グループ



修士2年  
麻生 弥絵 さん



カメラを楽器に向け、音の出し方や叩き方を指導

レッスン前の講師あいさつに耳を傾ける生徒

### 穂高西中吹奏楽部目標 「ベストミュージック」

—コロナの影響を受けて—  
自宅での練習しかできない期間を経て、今は学校で部活ができていることが嬉しいし、幸せなことだと感じています。発表の機会が少なくなってしまったのは悔しいです。

—部の目標に込められた意味は—  
演奏の機会は減っているけれど、演奏ができることに感謝しながら、ベストを尽くして良い音楽を響かせようという意味です。

—レッスンを受けて—  
昨年度は、講師として学生の皆さんが来て、直接教えてもらいました。今回はリモートだったので、機械を通すことで音量の変化が伝わりづらいのが難しいと感じましたが、丁寧に教えてもらって良かったです。



穂高西中学校 吹奏楽部(2年)  
部長 外館 龍太郎 さん

**止まらない感染拡大 止めたくない交流**

と東京藝術大学は、名誉市民である高橋節郎氏(1914-2007)が同大学の教授であったことが縁となり、これまで交流を続けてきました。例年であれば、年3回、音楽学部の学生が安曇野を訪れ、中学生の演奏指導にあたっています。

新型コロナウイルスの影響により、同大学でも実技やレッスン以外の講義は遠隔授業で行われ、中学校でも5月の休校から徐々に部活動が再開されたものの、夏のコンクールの中止、文化祭も録画による発表となるなど、感染対策を講じながら活動している状況です。

16年続いた東京藝大との交流事業も実施が危ぶまれましたが、コロナ禍の中でも継続できないか市と大学が一緒に考え、辿り着いた方法がZOOMを活用した「オンライン」での演奏指導でした。

**離れた場所でもつながる技術**

Zoomは、パソコンやスマートフォンなどの情報端末を使い、ウェブ上でビデオ会議な

### 三郷中吹奏楽部目標 「錦上添花 ～人に優しく、自分に厳しく～」



三郷中学校 吹奏楽部(2年)  
部長 坪田 佳子 さん

—コロナの影響を受けて—  
夏の大会がなくなって目指すものがなくなってしまうけれど、今はみんなで目標に向かって活動できるように頑張って良かったです。

—部の目標に込められた意味は—  
先輩が残した今ある土台を大切にしながらも、さらに良くなるように自分たちで創り上げていくという意味を込めました。また、コロナの影響で時間の感覚がルーズになってしまった部分があるので、人には優しく、自分に対しては厳しく向き合っていきたいです。

—レッスンを受けて—  
リモートではあったけれど、東京藝大の先生に教えてもらえて良かったです。普段の練習にも生かせる、意識した方が良い点などを詳しく教えてもらったので、今後頑張っていきたいです。

どを開催するためのアプリで、端末にインストールすれば、誰でも無料で利用できます。

今回は、12月12日・13日に三郷中学校と穂高西中学校の2校で各グループ2時間程のオンラインによる指導が行われました。生徒たちは、1月に開かれるアンサンブルコンテストに向け練習に励んでおり、3人の講師から大会に向けた確かなアドバイスを受けていました。

**終息を強く願いながら 芸術を通じた交流を**

**新** 型コロナの発生により、これまで当たり前だった対面でのコミュニケーションがとりづらくなりましたが、学校現場においても通信ネットワークなどの情報環境整備が進んでおり、これらの技術を活用することで、「人とつながりたい」という願いを可能にしています。

東京藝術大学と安曇野市を結ぶ芸術を通じた交流は、コロナに屈することなく、これからも続いていきます。

文化課文化振興担当(☎71・2463 ☎71・2338)